

平成 24 年鉄鋼流通団体合同賀詞交歓会を開催

—総勢670名が参集—

平成 24 年の鉄鋼流通団体合同賀詞交歓会は、1 月 13 日（金）午後 5 時より、ロイヤルパークホテル 3 階のロイヤルホールにおいて開催された。

定刻 20 分前に会場入り口に関係団体役員 6 名（当工業組合は高木理事長と酒匂東京支部長）が居並び、立礼を交わしながら入場が始まった。

出席者は、来賓として、経済産業省製造産業局鉄鋼課・塩田康一課長、葛岡制紀課長補佐、石神邦子流通係長、鉄鋼業界からは鉄鋼産業懇談会・内田耕造会長（新日本製鉄・代表取締役副社長）、同懇談会厚板部会・守安進部会長（J F E スチール・常務執行役員）をはじめ多数ご出席いただき、またメーカー、商社、機械メーカー、ユーザー団体、報道関係者のほか、全国各地の会員・組合員など、総勢約 670 名が参集した。

定刻には主催 6 団体の代表が登壇し、主催者を代表して全国厚板シェアリング工業組合の高木建理事長より開会挨拶が行われた。

次に、経済産業省の塩田康一鉄鋼課長より祝辞が述べられ、引続き内田耕造・鉄鋼産業懇談会会長のご発声で乾杯が行われ、和やかな懇談に移った。

午後 6 時 30 分に至り、全国厚板シェアリング工業組合東京支部・酒匂雅信支部長による中締め（三本締め）で散会となった。

1. 全国厚板シェアリング工業組合 高木理事長の挨拶

今年は、昨年の東日本大震災からの復旧・復興を含めて、この 20 年間成長軌道に乗れなかった経済を立て直す「再生」の年にしなければならない。

内需の加工に携わっている企業からみると、今年の事業環境には 2 つの大きな変化がある。一つは、「新日鉄住金」の発足で、本体の合併に伴って各事業分野の統合再編が進む。これが呼び水となって、我々加工の世界でも統合再編の波が起こる可能性があることに留意しなくてはならない。

もう一つは、超円高がしばらく続く見込みであるため、需要業界で従来我々が内需と考えていたものが、こぞって海外に流出する懸念があることだ。昨年からは自動車や電機など組み立て産業の生産拠点の再編が相次いでいるが、これまで考えあぐねていた部品・機械メーカー各社でも今年中頃からは、海外流出の動きが顕在化するのではないか。我々としては海外についていくよりも、需要家が国内にとどまったほうが良いという選択をするよう、国内で培ってきた様々な資産や知恵をうまく使って内需を盛り立てていくことが大切である。

同時に、建設分野については、復興需要への対応を含め、内需再生の一つのエンジン役を果たせるかどうかを試される重要な年になる。長い建設不況で低迷してきたが、新しいプロジェクトがようやく動き始めた今、この機会を活用して建設分野を内需再生のエンジン役にするのが我々関連業界の使命である。ただ、従来のように、量だけを求めてはいけない。マージンを確保し、皆が安定した経営基盤を持つことで、すそ野の広い建設業界を支えていけるかどうか問われている。心機一転、鉄鋼の内需を守るという新しい気持ちで、仕事に邁進すれば成果が表れるだろう。

2. 経済産業省鉄鋼課 塩田課長の来賓祝辞

今年は統合再編の年で、高炉では新日鉄住金が誕生するほか、ステンレスや電炉、コイルセンター、流通でも再編の動きがある。国内でしっかり経営委盤を固め、海外で需要産業が出ていく分だけでなく、伸びている需要を取り込めるよう、国内と海外の両方で、守りと攻めを強化する一年にしたい。日本の製造業の強みは、加工・流通などサプライチェーン全体の強みであるので、一体となって日本経済の再生に尽くしていただきたい。

3. 鉄鋼産業懇談会 内田会長のご祝辞

今年は構造的な変化がしばらく続くので、そうした変化を乗り越えていく年になる。過去の様々な危機を乗り越えてきたDNAを発揮し、新しい変化に対応しなければならない。

事業環境が変化する中で、鋼材メーカーから加工・流通までの一連の業務をさらに効率化することが内需減少を抑える対策にもなる。それぞれの役割を再点検しながら、機能をさらにレベルアップしないといけない。とくに輸入鋼材が増え、輸出の競争力も限界が見える中で、一層のコスト削減が必要になっている。従来の操業改善に加え、プロセスの改善や、需要に見合った最適生産体制の構築、他社との提携拡大などがより求められる。

壬辰の「壬」は耐える。辰年の「辰」は、根を張って、将来の飛躍に向け、形を整えるという意味と言われる。今年は、鋼材・加工・流通の一連の連携をさらに深め、一体となって、足元の新たな危機を乗り越えるとともに、事業基盤や経営基盤を固めて、さらなる飛躍に備える年にしたい。

4. 全国厚板シェアリング工業組合 酒匂支部長の中締め

今年度第4次補正予算案が閣議決定されるなど、公共事業もようやく復活する勢いが出てきた。ハッ場ダムのほか、東京外郭環状道路（外環道）や首都圏中央連絡自動車道（圏央道）など止まっていた建設工事が復活し、整備新幹線も長崎・北陸・北海道の未着工3区間の着工が決まった。JR東海のリニアモーターカーの事業など、いい話をするだけでも希望が出てくる。震災以降、様々なことが起きて、全てを失った感がある一方で、それとは反対に新たな仕事が出て来ようとしている。そうした仕事を何とか一つでもつかまえて、膨らませていきたい。特に流通は海外には出られないことを肝に銘じて頑張っていくことが大切だ。

（三本締めで閉会）

以上